



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2022/4/10 Rd-2 FUJI Speedway

天候：晴れ 気温：24℃ 出走台数：21台

2レース制で開催される開幕戦第1大会富士スピードウェイ第2戦決勝は、予選からわずか2時間半でレーススタートの時を迎える。

午前中無風だったコースは、昨日とは逆にメインストレート上向かい風がやや強くなってきた。気温もさらに上昇し、気温24度、路面温度も30度を超えた。

3番グリッドの選手がエンジンストールでスタートできなかったが大事には至らず、大きくポジションアップした牧野選手と大津選手は共にバトルをしながら走行。しかし、牧野選手はダンロップコーナーで松下選手に追突をされスピン。リアタイヤにダメージを受けてリタイヤを余儀なくされた。このことでセイフティカーが導入される。

5周目にレースが再開されると、大津選手はアレジ選手に迫るが抜くことはできず、ピットウェイドウが開いた10周目にピットインしたアレジ選手をアンダーカットすべく翌11周目にピットインしタイヤ交換を済ませた。

その後大津選手はトップ集団と変わらぬ24秒台のペースで20周にわたりアレジ選手との攻防を繰り広げ、31周目にアレジ選手をパス。7位に順位を上げたが、残り10周で6番手には追い付くことが出来ず7位フィニッシュ。4ポイントを得た。

5：牧野任祐 リタイヤ

第1戦、午前中の予選と、車のバランスは少しずつですが進歩していたので、さらに空力部分での修正を加えて決勝に臨みました。8分間のフリー走行でもフィーリング良く、スタートでも大きく順位を上げることが出来ていたので、追突によるリタイヤはもったいないというか悔しいレースになりました。7月にも富士戦がありますので、今回の結果をよく検証し臨みたいと思います。

次戦鈴鹿は富士とは大きく特性の異なるサーキットですから、一度気持ちもリセットし、良いところと問題点を整理して挽回したいと思います。

6：大津弘樹選手 7位 HONDA勢3位

スタートでエンジンストール車両がいましたが、スタートはとてもよくて、牧野選手と争いながら大きく順位を上げることが出来ました。車のフィーリングは週末の中でもっともよく、ペースも安定していました。アレジ選手を早い段階で抜くことができれば、違った展開になったと思うので、相手をオーバーテイクするにあたっての技術ももっと向上させなければと思いました。2週間後の鈴鹿戦ですが、テストの時点から非常にいいパフォーマンスを見せることができており、相性のいいサーキットですから、しっかり準備して本来の力を取り戻したいと思います。